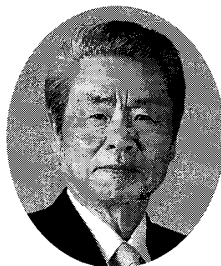


新会長あいさつ

会長就任にあたって



(株)コマツ 取締役会長
坂根 正弘

米国発の金融危機は各国の実体経済へ悪影響を及ぼし、EURO圏の債務危機に発展し成長市場はアジア・BRICSに移った。日本社会は人口減少し少子高齢化が加速している中で、東日本大震災の復旧復興に産官学が総力であたっている。さらに地球温暖化の問題に対処が必要である。これらに対応するためには国家レベルの全員参加の経済成長戦略が重要であり、企業が国際競争力を高めていくことが求められている。このためには、企業は環境変化に迅速に対応できる体質を作り、自社の強みを磨き弱みを克服していくことが必須である。日本の経済成長は、日本のモノ作りの強みを生かして「安全・安心」と「信頼性」を基盤とした高付加価値の製品・サービスを、ICTを駆使してお客様の視点に立って創出していくことが大事である。つまり「製造業のサービス化」により国際競争力を強化することに掛っている。それは学会が中長期計画の方針でうたった4本柱Qの確保、Qの展開、Qの創造、共通領域の実践でもある。モノとシステムそしてサービスを組み合わせ、品質保証していくことである。

本学会の「品質立国—日本の再生」の取り組みは社会の繁栄への大きな貢献活動である。第三期は前期の中期計画の4本柱を継承し「安全・安心」と「信頼性」を基盤とした繁栄する社会の構築に向けて、産官学が取り組む課題や学会員のニーズにあったテーマを進めていく。力強く推進されるように関係各位に願います。

「Qの確保」とは、当たり前の品質であるが、技術の革新や複雑化に伴い品質トラブルや事故が発生し、その対応のまずさから社会的信用を失うケース

が発生している。社会が求める「安全・安心」を確保するためにさらなるTQMの深化と革新が求められている。複雑化する問題解決にあたってはアプローチの方法やツールの開発が必要であり、特にICT活用による遠隔制御システムといった新しい技術を補完する品質技術やアプローチの方法の開発が大事である。それらの迅速な活用については、情報公開や共有化を進め一層の産学連携活動が必要である。

「Qの展開」とは、製造業で培ったTQM活動を、もっと広くサービス業・運輸業・小売業、さらに公共機関、教育、行政までに展開していく活動である。特に原子力発電に関する安全管理などインフラ分野の安全性と信頼性の向上、および文科省初等中等統計教育の整備に貢献していきたい。

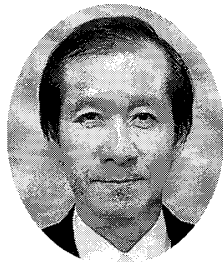
「Qの創造」とは、日本企業の国際競争力を強化するために顧客の潜在ニーズを掘り起こす活動である。サービス分野の顧客価値創造に加え革新的な品質管理の理論や技術・開発へ挑戦し産業界で試し、社会に的確に情報発信していきたい。

「共通領域」では、学会員の漸減傾向に歯止めをかけ力強い学会活動を進めていきたい。QC検定の受験者が増加しており、これは企業が品質管理の重要性を認識し人材育成のニーズの現われであり、学会員の拡充へつなげていきたい。

最後に、社会の発展、繁栄に貢献することが、学会や所属事業体および会員各位の発展につながると認識しており、会員各位の積極的な参加をお願いしたい。

前会長あいさつ

会長退任にあたって



電気通信大学 教授
鈴木 和幸

当学会 39 期・40 期の会長を務めさせていただきました。設立 40 周年を迎えた本年 3 月 11 日に未曾有の東日本大震災が発生しました。品質に関連し当学会 HP に復旧支援のための情報サイトを即立ち上げ、支援 MAP 等による情報提供・震災支援懇談会の開催・安全確保に向けた 7 つの提言をまとめました。

この 2 年間は第 2 期中期計画の 2 年目と 3 年目にあたり、中期計画の「Q の確保」「Q の展開」「Q の創造」と「共通領域の推進」の 4 本柱を継承すると共に更なる充実発展を図るべく努めました。以下、新たな取り組みを中心に記します。

(1)「Q の確保」では、産学連携の強化を図るため、3 種の形態別産学連携の取り組みを開始し、協同研究テーマ一覧表の作成と周知、賛助会員へのアンケート調査等、ニーズとシーズの明確化と情報交換に努めました。信頼性・安全性計画研究会は、ICT 援用信頼性・安全性情報システムの理論構築に加え、災害リスクへの備えという視点を重視し、リスクマネジメントのフレームワークの再構築、ベストプラクティスの調査分析を行いました。また、新たに産官学協業による“統計・データの質マネジメント計画研究会”を立ち上げ、公的統計・新医薬品開発におけるデータマネジメントの現状と問題の検討を開始しました。

(2)「Q の展開」では、当学会は原子力特別委員会を設け 2007 年より関連学会と原子力発電の安全・安心への発信を行ってまいりましたが、この度の震災を受けて今後の更なる活動を検討中です。医療の質・安全部会では、患者状態適応型パス(PCAPS)、医療の質マネジメントシステムを中心に研究しまし

た。初等中等統計教育における「生きる力」育成への活動支援として、TQE 特別委員会を新たに結成、初等中等向け問題解決法の検討とその普及を WEB・県庁訪問活動等を通して行い、また、今年度より統計グラフ全国コンクールに日本品質管理学会賞を制定し問題解決力向上に努めました。この結果、東京都グラフコンクール入賞作品 44 点中、8 点が問題解決型の作品となりました。また、ISO 39001「道路安全マネジメントシステム」に関し、新たに“運輸安全特別委員会”を設け課題の検討を開始しました。

(3)「Q の創造」では、サービス産業における顧客価値創造研究会を中心に活動を継続し、顧客価値創造の方法論の定式化と確立に向けて活動を行いました。

(4)「共通領域」では、設立 40 周年記念シンポジウム開催(2011 年 5 月 27 日)とともに、一般社団法人への移行に向けての内閣府への認可申請準備を完了しました。一方、新たに会員満足度調査を実施し、この分析をもとに海外学術誌掲載の論文紹介コーナーの新設、賛助会員へのサービス向上策の検討、会員情報データベースの構築を行いました。さらに、『新版品質保証ガイドブック』の刊行、『JSQC 選書』累計 16 冊の発刊、JSQC 規格第一号となる『品質管理用語』発行準備を完了しました。また、ANQ ベトナム大会開催への支援を行い大会の成功に役割を果たしました。なお、若手人材育成のために国際会議発表支援とともに、40 年度より JSQC Activity Acknowledgment 賞を創設しました。

終わりに、この 2 年間大変お世話になりました歴代会長・理事・会員各位に厚く御礼申し上げます。